

令和元年

壱岐市議会定例会 9 月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）気候非常事態宣言について・・・・・・・・	1
（2）再生可能エネルギーの推進について・・・・・・・・	2
（3）まちづくり協議会の推進について・・・・・・・・	3
（4）福島県檜葉町との友好都市締結について・・・・・・・・	4
（5）全国離島交流中学生野球大会について・・・・・・・・	4
（6）第3次壱岐市総合計画策定について・・・・・・・・	5
（7）逆参勤交代事業について・・・・・・・・	6
（8）空き家活用促進について・・・・・・・・	6
2. 災害復旧	
（1）農地・農業用施設等災害復旧について・・・・・・・・	7
（2）公共土木施設災害復旧事業について・・・・・・・・	7
3. 交流人口の拡大	
（1）観光振興について・・・・・・・・	8
（2）壱岐市東京事務所の開設について・・・・・・・・	9
（3）壱岐ウルトラマラソンについて・・・・・・・・	10
4. 産業の振興	
（1）農業の振興について・・・・・・・・	11
（2）水産業の振興について・・・・・・・・	12
（3）インド訪問について・・・・・・・・	13
5. 市民	
（1）幼児教育・保育の無償化について・・・・・・・・	14
（2）認知症とともに生きる地域づくりに関する連携協定について・・・	15
（3）介護保険施設等の整備について・・・・・・・・	16
6. 教育	
（1）通学路交通安全・防犯プログラムについて・・・・・・・・	16
7. 防災、消防・救急	
（1）防災対策について・・・・・・・・	17
（2）消防・救急について・・・・・・・・	18
8. 議案説明	
（1）補正予算について・・・・・・・・	18
（2）その他の議案について・・・・・・・・	19
9. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・	19

行政報告

令和元年壱岐市議会定例会 9 月会議

1. はじめに

本日ここに、令和元年壱岐市議会定例会 9 月会議にあたり、前会議から本日までの市政の重要事項、及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、8 月 27 日から 30 日にかけて発生した大雨は、佐賀県内を中心に甚大な被害をもたらしております。本市でも 1 時間雨量最大で 46 ミリ、降り始めからの総雨量最大で 411 ミリを記録し、壱岐空港では、48 時間雨量と 72 時間雨量が観測史上最大となり、「50 年に 1 度の記録的な大雨になっているところがある」と発表されました。

本市においては、8 月 28 日午後 8 時 45 分に、郷ノ浦町と石田町に避難勧告を発令し、同時に 2 カ所の避難所を開設いたしました。避難者は合計で 7 世帯 14 名となっております。

なお、今回の大雨により、現時点で、道路災害 6 件、河川災害 1 件、林地災害 5 件、農地及び農業施設災害 5 箇所が発生しておりますが、幸い人的被害は発生しておりません。災害復旧を進めるとともに、今後も関係機関と十分連携を図り、災害対策に万全を期してまいります。

(1) 気候非常事態宣言について

近年、世界各地で気候変動による甚大な影響が顕在化する中で、

本年8月1日に、認定特定非営利法人 環境経営学会 会長 後藤^{ごとう}
敏彦^{としひこ}氏から、「気候非常事態宣言」に関する声明が発表されました。

「気候非常事態宣言」とは、地球温暖化が人間社会と自然環境を危機的状況に追い込んでいるということを認識し、その問題解決に向けた活動に社会全体で取り組んでいくというものであります。

現在、この「気候非常事態宣言」を行う国や自治体は、欧米諸国等を中心に急速に拡大しており、世界18カ国、927の自治体が宣言している状況であります。

一方、国内においては、「気候非常事態宣言」に関するメディア報道等も少ないため、宣言を表明した自治体はありません。

日本各地では、猛暑、台風、集中豪雨、洪水などの気象災害により痛ましい被害が発生し、本市においても、集中豪雨や水不足などの異常事態が発生しております。また、藻場の減少等により、基幹産業である漁業も深刻な影響を受けております。

このような状況から、本市は、地球温暖化に起因する気候変動が人間社会や自然環境にとって著しい脅威となっていることを認識するとともに、温暖化防止のための脱炭素化の実現に向けて、SDGs未来都市として取り組む具体的な活動を示した「気候非常事態宣言」について、今回、議案を提出しております。

(2) 再生可能エネルギーの推進について

本市では、地球温暖化防止対策の観点から、「低炭素のしまづくり」を標榜し、平成27年以降、再生可能エネルギーの導入拡大に関する取組を行ってまいりました。また、地球温暖化防止は、全地球規模

での対策が喫緊の課題であり、SDGs 推進の観点からも重要な取組であると考えております。

本市は、太陽光や風力など地域独自のエネルギー資源に恵まれている一方で、九州本土と系統連系していないため、大規模な再生可能エネルギーの導入が困難な状況にもあります。この状況を打開するために、出力制御等で無駄になってしまう再生可能エネルギーを水素として貯蔵し、需要に合わせてエネルギーとして有効活用するため、水素実用化実証システムの導入に係る調査・設計業務を行うための所要の予算を計上しております。このシステムの導入により、事業の効果や経済性についての裏付けを得たうえで、2030年には、本市でのエネルギーミックスにおける再生可能エネルギー導入比率24%を達成し、2050年までの早い段階で、再生可能エネルギー100%のしまづくりを目指してまいります。

(3) まちづくり協議会の推進について

市民皆様が主体となった協働のまちづくりの実現に向けて、小学校区を単位とした、まちづくり協議会の設立を進めております。

これまで、各地区公民館や小学校区単位での説明会を実施し、まちづくり協議会の設立に向けた手順等の説明を行ってまいりました。

その結果、幹事会が8地域、その内設立準備委員会が4地域で立ち上がり、集落支援員につきましても5地域で公募が実施されております。

早い地域では11月頃を目処にまちづくり協議会の設立を目指し、協議が進められている状況であります。今後も、SDGs 未来課を

中心に、全職員総力を挙げて、まちづくり協議会設立に向けた取組を進めてまいります。

(4) 福島県檜葉町との友好都市締結について

福島県檜葉町と壱岐市は、東日本大震災の復興業務支援を目的に平成24年度から本市職員を派遣したことを契機とし、その後、両市町の小学校児童による交流が生まれ、平成28年には檜葉町町制施行60周年記念式典に合わせ、相互の交流・振興・活性化を図るため、「防災・教育・経済友好交流宣言（パートナーシップ宣言）」を結びました。

本年7月1日には「壱岐焼酎で乾杯 in ならば」が開催され、官民合わせた交流も始まっており、また、本年7月22日から4泊5日の日程で檜葉町の子どもたちが本市へ来島するなど、心の通った交流を続けております。

このようなことから、去る8月11日東日本大震災の鎮魂と復興の祈りを込めた花火大会「ライトアップニッポン」の趣旨に沿った「^{いきのしま}壱岐島ふるさと花火2019」が本市で開催されるにあたり、檜葉町から松本町長、青木町議会議長をはじめ関係皆様をお招きし、友好都市提携調印式を執り行ったところであります。

今後も子どもたちの交流はもとより、互いの伝統や歴史、文化、環境などを幅広く学習する機会を増やし、さまざまな分野において両市町の友好の絆を深めてまいります。

(5) 全国離島交流中学生野球大会について

離島球児の夢舞台「国土交通大臣杯第12回全国離島交流中学生

野球大会」通称「離島甲子園」が、去る8月19日から22日まで対馬市で過去最多となる25チーム参加のもと開催されました。

壱岐市選抜チームは、一回戦で八丈島選抜に5対3と逆転勝ちし、準々決勝で開催地である対馬ヤマネコボーイズに6対1、準決勝で鹿児島県の^{たつごう}龍郷選抜に4対2と順調に勝ち進み、決勝戦に臨みましたが、石垣島ばいーぐるズに惜しくも1対3で敗れてしまいました。第6回大会以来の壱岐市選抜の3回目の優勝は叶いませんでしたが、見事なチームワークで準優勝という素晴らしい結果を残してくれました。

全国の離島の中学生が一堂に会した本大会に参加した壱岐市選抜チームは、野球を通じて「島」と「島」の交流を図り友情を育むとともに、粘り強さや強い心を持ち島の活性化や社会で自立していく精神力を身に付けてくれたことと思います。

この経験を活かし、自分の夢や目標に向かって、子どもたちが大きく成長することを期待するものであります。

(6) 第3次壱岐市総合計画策定について

第2次総合計画は、まち・ひと・しごと創生法の新たな枠組みの中、平成27年度から令和元年度までの5カ年計画として策定し、施策を推進してまいりました。

その間、本市では有人国境離島法の制定、SDGs未来都市の選定、壱岐市自治基本条例の制定等、行政のみならず民間事業者や市民生活を取り巻く環境が大きく変化しております。

そのため、第3次総合計画では、変化する社会情勢や多様化する

市民ニーズを総合的に踏まえ、人口減少問題の克服と地方創生を主眼とした「総合戦略」を包含し、さらに“誰一人取り残さない”という「SDGs 未来都市」のビジョンを整合した計画の策定を進めております。

今後、計画案についてパブリックコメントを行い、広く市民皆様からのご意見を伺うこととしており、本年12月会議に議案として提出する予定であります。

(7) 逆参勤交代事業について

本市の政策顧問である ^{まつだ ともお}松田 智生 氏が提唱されている「逆参勤交代構想」は、首都圏等の企業社員が期間限定、かつ、交代制で地方に勤務することで、働き方改革と地方活性化の同時実現を目指すものです。

企業には生産性向上や新事業創出が、社員には通勤時間短縮や余暇時間増加がもたらされ、地方には地域文化の担い手の確保、オフィス・住宅の需要増、消費創出等が期待できるとされております。

今回、9月27日から29日にかけて本市におきましてトライアル逆参勤交代を行うこととしており、参加者及び関係者17名が来島され、本市の課題である高齢化、人口減少問題等について、地元の方や移住者の方と討議を行い、参加者同士で課題解決プランを検討・提案していただくこととしております。

(8) 空き家活用促進について

本年5月に空き家活用促進担当の地域おこし協力隊として、^{ふじき}藤木 ^{あやの}彩乃さんを委嘱いたしました。本市と協定を結んでおります芦辺浦

の市民団体「たちまち」の皆さんと連携を図り、本年7月から「たちまち」のスペース内に「空き家相談室イエマチ」を開所し、空き家相談、移住相談等の相談受付を行っているところであります。

市が抱える人口減少対策の一環として、市外からの移住者受け入れに伴う住環境の整備は喫緊の課題であり、その対策の一つとして、空き家を活用し空き家所有者と移住希望者のマッチングを行うことで、官民一体となって課題解決を図ってまいります。

2. 災害復旧

(1) 農地・農業用施設等災害復旧について

平成29年に発生した農地・農業用施設等災害については、国庫補助金交付決定箇所526地区中、昨年度までに242地区が完成しております。現在の進捗状況は、残りの284地区中、206地区が発注済みとなっております。未発注の78地区については、営農状況等を考慮し、早期の発注に努めてまいります。

平成30年に発生した64地区については、平成29年災の発注完了後に、営農状況等を考慮し、順次発注する予定としております。関係農家の皆様には、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

また、令和元年度災害については、今後、国の査定を受け、早急に関係事務手続を進め、復旧工事に着手してまいります。

(2) 公共土木施設災害復旧事業について

平成29年に本市で発生した公共土木施設災害については、同年12月から工事発注を行い、順次復旧を進めております。現在まで

の進捗状況は、国庫補助災害 279 箇所全てを工事契約し、内 255 箇所が完成しており、またその他単独災害についても、84 箇所中 75 箇所を契約し、内 67 箇所が完成しております。

平成 30 年発生災害は、国庫補助災害 28 箇所でありましたが、6 月中に工事発注を行い、28 箇所全てを契約し、順次復旧を進めております。

3. 交流人口の拡大

(1) 観光振興について

本市における観光客数を推計する上で参考となる九州郵船とオリエンタルエアブリッジの本年 1 月から 7 月末までの乗降客数累計は、422,119 人、対前年比 105.0 パーセントでありました。

本年度 8 月末現在の一支国博物館の入館者数については、53,757 人となっており、7 月 20 日から開催されている
やまもと にぞう
山本 二三 先生の特別企画展の好評などもあり、対前年度比 109.2 パーセントとなっております。

壱岐イルカパーク&リゾートは、新しい体験プログラムの導入やカフェメニューの充実など施設の魅力向上に努めており、4 月 25 日のリニューアルオープンから 8 月末まで 23,535 人、内島外から 14,945 人のご来園をいただいております。

8 月には 2 隻の大型客船が本市へ寄港いたしました。10 日には 508 人のお客様を乗せた「ぱしふいっくびいなす」が、21 日には 367 人のお客様を乗せた「にっぽん丸」が郷ノ浦港新岸壁へ

入港しました。

来る9月16日には、博多ヨットクラブ主催による第3回目となる壱岐・福岡ヨットレースの開催が予定されております。昨年からは壱岐市長杯と冠して開催されており、今年も多くのお客様にご来島いただけるものと期待しております。

昨年度好評を得たJR西日本とのタイアップ企画である「新幹線で壱岐にいきたい！」キャンペーンについて、本年度も10月から2月までキャンペーンを実施していただけることとなり、京都や大阪をはじめ関西・中国地方から多くのお客様にご来島いただけるものと期待しております。

また、8月3日には、「神々が宿る島・壱岐」の魅力を市民皆様や観光客に広くアピールすることを目的として、筒城浜ふれあい広場で行われる壱岐大大神楽公演に合わせ、隣接する白沙八幡神社を3,500個のLEDキャンドルで灯す初の参加型ライトアップイベント「かみあかりの夜 ～まう、ともす、いのる～」を開催しました。両イベントの相乗効果により壱岐大大神楽も例年を大きく上回る観客で賑わったところであります。

(2) 壱岐市東京事務所の開設について

首都圏における本市の認知度は、大変低い状況にあるため、本市の観光地としての魅力と壱岐産食材の情報発信を推し進めるため、令和2年4月から壱岐市東京事務所を開設したいと考えております。東京事務所開設については、財政的な観点と費用対効果を鑑みた時、高額な事務所の賃借料などが支障となっておりましたが、この度、

東京壱岐雪州会の前会長を務められた株式会社ファウンテックの
万谷 正 まんだに ただし 代表取締役社長のご厚意により、千代田区丸ノ内に所在する
自社事務所の一部を壱岐市の事務所として利用して構わないとの
ご提案をいただき、借用させていただく方向で進めたいと考えて
おります。東京事務所の開設を契機として、首都圏における認知度
向上、観光宣伝による交流人口の拡大と壱岐産食材の販売促進を
図ってまいります。

また、壱岐市福岡事務所については、令和2年3月末をもって閉所
する予定としております。福岡事務所は、平成23年4月の開所
から福岡市における本市の活動拠点施設として、ブログの開設やメデ
ィアを活用した情報発信、福岡市内でのイベントの開催やサポー
トショップの開拓、壱岐産品を使用した食材フェアの実施など、
福岡都市圏での本市の認知度向上に大きな役割を果たしております。
しかしながら、福岡市は距離的にも近く、福岡事務所の業務のうち
出張等で対応できる部分も多くあることから、閉所する判断をいた
しました。今後、これまで築き上げた本市の認知度向上に資する
施策については観光課直轄業務として実施し、また、サポートショッ
プのフォロー体制を検討するなど、閉所によるデメリットを最小限に
抑えるよう関係団体等と協議してまいります。

(3) 壱岐ウルトラマラソンについて

10月19日開催の壱岐ウルトラマラソンの申込みは、8月30日
に応募を締め切り、速報値で、福岡県216人、長崎県137人をはじ
め、北は北海道から南は沖縄まで38都道府県から100Km463人、

50Km231人、計694人の方からエントリーをいただきましたが、昨年比34人の減となっております。

市全体で大会を盛り上げるため、例年同様、小学生には参加選手への手紙と応援のぼりの製作を、中学生と高校生には当日の給水所等の運営に協力をいただき、選手への激励を行うようにしております。

また、株式会社ファウンテック 様、九州郵船株式会社 様をはじめ、壱岐開発株式会社 様、玄海酒造株式会社 様、大塚製菓株式会社 様、株式会社 あいえいちあい I H I エスキューブ 様ほか、多くの企業からご協賛いただき、様々な面でご支援をいただいております。

壱岐全島を舞台とした一大イベントであり、大会の成功に向け万全の準備を進めておりますので、市民皆様をはじめ関係機関、団体皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

4. 産業の振興

(1) 農業の振興について

今年は、30日間の降雨量100mm以下の干天日が4月下旬から6月中旬まで続き、農業用ダムやため池の貯水量が低下するなど、水不足による農作物への被害が心配されたため、干害対策のとりまとめを行い、干害応急対策事業を実施いたしましたが、その後、7月の降雨により、回復傾向となっております。

こうした中、普通期水稻については、水不足のため一部の水田で田植えが遅れるなど生育が遅れ気味で、品質と収量の低下が懸念されております。早期水稻については、気温が高く日照時間も確保で

き、順調に生育していましたが、8月末の大雨により倒伏や収穫の遅れによる品質の低下が懸念されております。

葉たばこについては、移植後の天候に恵まれ、病虫害の被害もなく順調な生育となっております。収穫直前に立枯病が発生しましたが影響も少なく、例年のない豊作で反収290kgの収量が見込まれております。

肉用牛経営における子牛の販売については、全国的な繁殖農家の減少に伴う素牛不足で、8月市も平均価格が813千円と6月市と比較して99.7%とほぼ同額となっており、県内他地域が下がっている中、依然高い水準を保っております。

有害鳥獣対策については、郷ノ浦町初山地区において、イノシシの情報があり、ヌタ場が確認されたので、センサーカメラ及びくくり罠を設置しております。今後、早期駆除に努めてまいります。

(2) 水産業の振興について

本年4月から7月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年と比較いたしますと、漁獲量は629トンの35.9%減、漁獲高は5億7千8百万円の31.9%減と漁獲量、漁獲高ともに大幅に減少しております。

また、市内5漁協の正組合員数は、平成30年度末で昨年より33名減の883名となっており、漁家及び漁協の経営は大変厳しい状況が続いておりますが、水産業の振興については、今後も、漁業者皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図りながら、各種施策に積極的に取り組んでまいります。

今回、県営事業による郷ノ浦港、大島漁港の港湾漁港整備・改修工事に係る地元負担金及び勝本港黒瀬地区埋立事業に係る経費等について、所要の予算を計上しておりますので、ご審議賜りますようお願いいたします。

(3) インド訪問について

去る8月12日から17日までの日程で、インド・バンガロールを山本 啓介県議会議員とともに訪問しました。

本年1月17日に、インドの企業2社が、こころ医療福祉専門学校壱岐校にインドからの留学生を仲介している一般社団法人シルバーピークジャパン（長崎）とともに来島され、情報通信環境が整っている本市への企業進出を検討している旨説明がありました。こうした熱心なアプローチを受け、企業誘致実現を推進するため、この度インド訪問を行ったところであります。

現地では、IT関連企業7社と本市への企業進出希望の表明及び本市の受入環境の整備に係る覚書にそれぞれサインを行い、今後、企業進出の実現に向けた具体的取組を進めることで一致したところであります。これら一連の流れについて説明と協力依頼のため、来る9月6日にインド大使館を山本県議とともに訪問することとしております。

また、現地では、まさに人材の宝庫であるITと機械工学で有名なグローバルアカデミー大学を訪問し、日本に興味がある学生約450名との意見交換も行ったところであります。壱岐市の自然、食、文化等の魅力をお話しさせていただくとともに、光ケーブル網

の整備による情報通信環境やテレワークの取組、有人国境離島法による振興策等についての説明を行い、学生からは、離島である本市の情報通信環境と各種施策に驚きと大きな関心が寄せられたところでもあります。インドでは、こうした学生に対し、プログラミングをはじめとするさまざまなIT教育に力を入れており、また、日本への関心も高いことから、留学や移住による人材確保及び人材育成現場との連携という意味でも大きな可能性を感じたところでもあります。

この他、日本語学校、日本総領事館等においても、視察や意見交換を行うなど、極めて有意義なインド訪問になったところでもあります。

このような形で、インド企業進出が実現すれば、日本で初めてのケースであり、本市のIT産業振興とともに、子どもたちが日常的に英語やプログラミングの教育に触れる機会が増える等、教育面においても大きな波及効果が期待でき、「ITアイランド」構想がさらに進展するものと考えております。また、このことは、SDGsの理念と一致するものであり、本市のSDGs未来都市の推進にも大きな役割を果たすものと考えております。

今回のインド訪問を契機に、IT関連企業の誘致実現の取組をさらに加速させてまいりますので、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

5. 市民

(1) 幼児教育・保育の無償化について

本年10月から施行される幼児教育・保育の無償化について、

去る7月9日壱岐の島ホール中ホールにおいて、小規模保育施設、認可外保育施設設置者をはじめ、幼稚園、保育所等の関係職員約120名に制度の説明会を開催いたしました。

その後、8月19日から22日までの4日間、町ごとに保護者向けの説明会を開催し、延べ560名以上の参加をいただくなど、周知に努めているところであります。

本制度は、満3歳の誕生日に達した以後の、最初の4月1日を迎えた子どもから就学前までの子どもたちの幼稚園教育授業料及び保育料が無料となりますが、保育所や認定こども園等では、年収360万円未満の世帯に属する児童を除き、給食費（副食費）を納入いただくこととなります。給食費（副食費）の額については、現在調整を行っており、決定次第お知らせいたします。

また、市民税非課税世帯に属する3歳未満児についても保育料が無料となります。

今後、制度移行に滞りのないよう諸手続等を行うとともに、幼児教育・保育の質の向上と量の確保に努力してまいります。

（2）認知症とともに生きる地域づくりに関する連携協定について

本年7月1日、壱岐医師会、エーザイ株式会社及び壱岐市の三者において、「認知症とともに生きる地域づくりに関する連携協定」を締結いたしました。

本協定につきましては、大手製薬会社であるエーザイ株式会社から本市の重要施策の一つである認知症施策について、提案をいただき、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりを進める上で、ぜひ必要

と判断し、締結に至ったものであります。

今後、この協定の締結により、認知症に対する正しい知識の普及啓発、認知症の早期発見、早期受診及び早期介入を実現する環境構築、認知症の予防、重症化予防、その他安心して暮らせる地域づくりを促進するための活動を効率的に推進することが可能となることから、さらなる取組を進めてまいります。

（３）介護保険施設等の整備について

本年度は、第７期介護保険事業計画（平成３０年度から令和２年度まで）の中間年度にあたり、新規事業として計画に盛り込まれている認知症対応型グループホーム（２ユニット・定員１８人）の施設整備を図る予定であります。

事業者において近隣住民の皆様に対する説明会が９月上旬頃に予定されており、その後、建築業者の選定・着工となります。市といたしましても年度末までの完成に向け、支援に努めてまいります。

６．教育

（１）通学路交通安全・防犯プログラムについて

本市では、平成２６年に「壱岐市通学路交通安全プログラム」を策定し、教育委員会、各小学校、警察署、道路管理者等の関係機関が連携し、本プログラムに基づいて計画的かつ継続的に通学路の交通安全対策を実施し、通学路の整備に努めております。

平成３０年５月に新潟市で下校中の児童が殺害されるという事件をはじめ、全国各地で痛ましい事件が相次いで発生をしていること

から、各学校等には、国が制定した「登下校防犯プラン」に基づいて、登下校時における安全確保対策を講じるようにとの通知もなされました。

そのようなことから、本年7月、壱岐市通学路交通安全プログラムの取組を拡大し、防犯の面からの対策も充実するべく、「壱岐市通学路交通安全・防犯プログラム」を策定いたしました。

登下校時の防犯対策の推進にあたっては、警察、教育委員会、学校、自治体の4者に加え、放課後児童クラブ、地域住民、保護者等の関係者が連携することが不可欠であり、「壱岐市子供を守る地域連絡協議会」を構成し、様々な情報を定期的に交換・協議し、必要に応じて合同点検を行うなど、児童生徒等が安心して登下校できる通学路の安全確保に取り組んでまいります。

7. 防災、消防・救急

(1) 防災対策について

8月15日に西日本を縦断した台風10号が、太平洋側地域を中心に大雨と暴風をもたらし、7月、8月で壱岐島に影響を与える台風が立て続けに3回接近しております。7月の台風5号の折には、対馬及び五島で大雨特別警報が出される豪雨に見舞われるなど、大雨や台風が近年頻発していることから、本市においても、いつ自然の猛威に襲われてもおかしくない状況であることを再認識し、気を緩めることなく対応してまいります。

市民皆様におかれましても、備蓄品の準備、避難場所の確認など、

未然の備えをお願いいたします。

なお、10月6日には、郷ノ浦新港一帯において、令和元年度壱岐市防災訓練を開催することとしております。災害発生時における初動体制の確立、関係機関との連携等、実効性の高い訓練を行ってまいりますので、市民皆様にもご参加、ご見学等をいただき、防災に対する知識及び意識の高揚に繋げていただきたいと考えております。

(2) 消防・救急について

今年の夏も全国的に異常気象となり、市内では、8月末日現在、19名の熱中症による患者を救急搬送しております。今後も、残暑が厳しいことが予想されますので、市民皆様には、こまめな水分補給を行うなど引き続き体調管理には十分留意していただきますようお願いいたします。

8. 議案説明

次に、議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出した令和元年度補正予算の概要は、

一般会計補正額	2億8,970万円
---------	-----------

各特別会計の補正総額	6,958万6千円
------------	-----------

となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正額の合計は、

	3億5,928万6千円
--	-------------

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、

250億1,400万円
で、特別会計については、86億3,087万8千円
となっております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、平成30年度各出資法人の経営状況等に係る報告6件、平成30年度財政健全化判断比率等の報告1件、条例の制定・改正に係る案件5件、気候非常事態宣言に係る案件1件、予算案件6件、平成30年度各会計決算認定8件であります。

何とぞ十分にご審議をいただき、適正なるご判断を賜りますようお願い申し上げます。

9. おわりに

以上をもちまして、前会議以降の市政の重要事項また政策等について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でありますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年9月5日

壱岐市長 白川博一